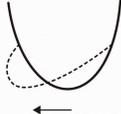


# 食べる力に合わせた離乳食の与え方

	離乳初期 5～6か月頃	離乳中期 7～8か月頃	離乳後期 9～11か月頃	離乳完了期 12～18か月頃
食べる力の発達	唇で取りこみ、唇を閉じてのどの方に送り、飲み込む。	上あごと舌の間で押しつぶす。	食べ物を歯ぐきに送り、上下の歯ぐきでつぶす。手づかみ食べや前歯での噛み取りの練習をする。	手づかみ食べを十分に行う。前歯でのかじり取りで、歯を使う感覚や自分の口に合った一口量を覚える。
姿勢	少し後ろに傾けた姿勢にする。	1人で座れるようになったら足底が床などにつく安定した姿勢にする。	自分の手が届くテーブルで、体がやや前傾した姿勢をとれるようにする。	足底が床などにつく姿勢で垂直に座り、ひじがテーブルにつく程度にする。
食事介助	食べ物はスプーンの1/3から1/2程度に盛り、下唇にのせ上唇が閉じるのを待ち、上唇でこすり取りこまれたらスプーンを抜く。上あごや上唇にこすりつけない。	舌の前方部で食べ物が取りこめるようにする。液体のときは、スプーンを横向きにして上下の唇の間にはさませながら、一口ずつすすらせる。	さまざまな食べ物の形や感触を手指などで覚える時期なので、手づかみ食べを妨げないようにする。	主体は手づかみ食べだが、スプーンを持ちたがるときは持たせる。
唇と舌の動き	 <p>上唇の形は変わらず下唇が内側に入る。口角はあまり動かない。</p>  <p>舌は前後に動く</p>	 <p>上下唇がしっかり閉じてうすく見える。左右の口角が同時に伸縮する。</p>  <p>舌は上下に動く</p>	 <p>噛んでいる側の口角が縮む</p>  <p>舌は左右に動く</p>	この頃になると、奥歯が生え始め、歯を使った咀嚼を覚えるようになる。離乳が完了し、歯が生えそろっても大人と同じような食べる力はない。「口から出す」、「丸飲み」、「口の中にためて飲み込まない」などは、食べる力と食形態があてない場合があるので、配慮が必要である。
調理形態	口に入ったらそのまま飲み込める、なめらかにすりつぶしたペースト状にし、ややゆるめから始め徐々に水分を減らす。	そのまま飲みこまず、舌と上あごでつぶせる固さにする。親指と薬指で軽く力を入れたらつぶれる程度（豆腐くらい）にする。	歯ぐきでつぶせる固さ（バナナくらい）にし、歯ぐきの上へのせやすい大きさにする。	歯ぐきで噛める固さ（肉だんごくらい）とともに、手づかみ食べやかじり取りができる形状にする。
食器・食具	スプーンは口の幅より狭く、浅いものがよい。	スプーンはあまり深くない形にする。コップの使用を始めてもよい。	スプーンはやや深い形にし、口唇の力をつけるようにする。コップ飲みを進める。	コップが使えるようになる。